

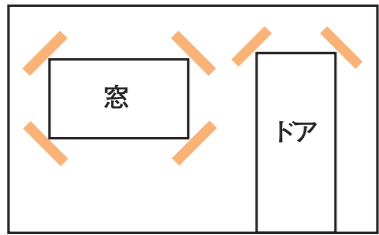
# 外壁材〈GWT〉の施工方法 標準施工厚：3mm

## GWT 適合下地…… コンクリート、モルタル

ALC、サイディング下地、コンクリートブロック下地は、構造上動きやすいためクラックが出やすく、また、接着性も良好とはいえ、施工はお勧めできません。また、合板、および、ラスカット下地もクラック等の問題が出やすいため、お勧めできません。



### 1 ファイバーテープを開口部に貼る



開口部（窓・ドア）の角をファイバーテープで補強してください。

施工面にクラックが入っている部分は補修し、ファイバーテープで補強してください。

### 2 シーラー塗布

全面に水性シーラーを塗布して、下地の吸水を抑えてください。

水引きがはげしいモルタル下地は、シーラーを複数回塗布する場合があります。

乾燥

コンクリート下地

### 3 下塗り

下塗材〈NGU〉を塗ってください。  
（標準施工厚：1mm）  
下塗りで平らな面を作っておくことが、仕上材をきれいに塗るためのポイントです。

モルタル下地

### 3 下塗りしながらファイバーテープを伏せ込む

下塗材〈NGU〉を1mm厚で塗りながら幅広のファイバーテープを全面に伏せ込んでください。クラックが入りにくくなります。（標準施工厚：1mm）

下塗りで平らな面を作っておくことが、仕上材をきれいに塗るためのポイントです。

乾燥

### 4 仕上げ塗り

仕上材を塗ってください。  
材料の乾燥が早い場合は、『粉つのまた』または『メトローズ』を入れても問題ありません。

#### 気象条件にご留意を！

気温 湿度 雨 風 日照

厳寒期は色ムラや白華が起きやすくなりますので、施工はお勧めできません。

雨天や強風時、異常乾燥時は色ムラになりやすいため、施工はお勧めできません。

● 猛暑時、急激な乾燥による硬化不良（ドライアウト）が起きる恐れがあるときは、施工前にあらかじめ水打ちする、あるいは、施工日を選定し直すなどの配慮をしてください。

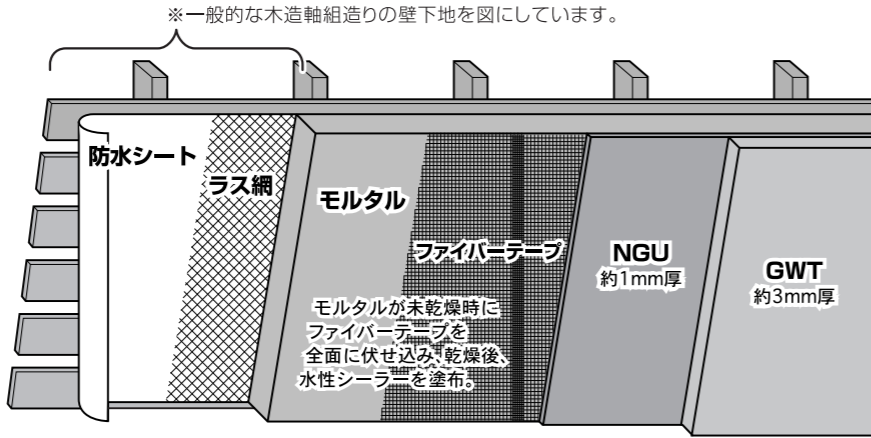
● 完全乾燥前に雨にあたらないようご注意ください。

● 完全乾燥後でも、雨樋のない軒下など集中的に大量の雨水などが降りかかる箇所では白華現象が起こることがあります。防止策の一例を下に記載しておりますので参考例としてご覧ください。

## ○ モルタルの施工から行う場合

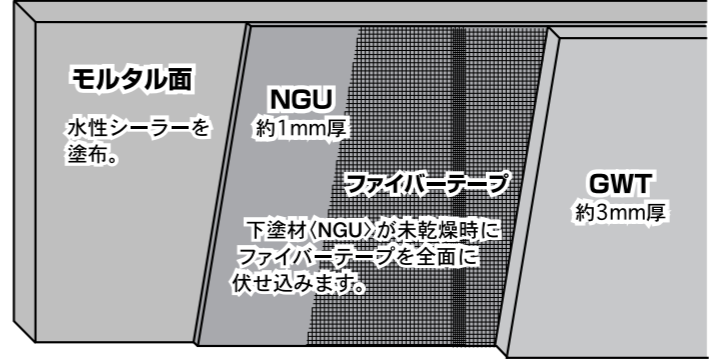
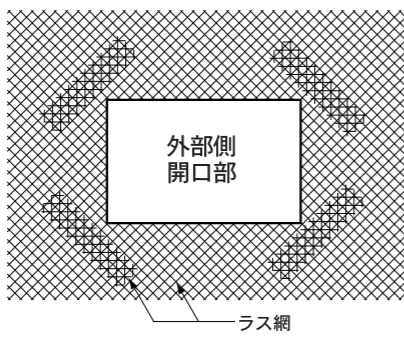
### モルタル施工時にファイバーテープを伏せ込んでください

下地の動きによるクラック防止のため、モルタル施工時に、幅広のファイバーテープを全面に伏せ込んでください。

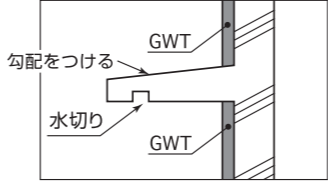


### ラス網を張る際に開口部の補強をしてください

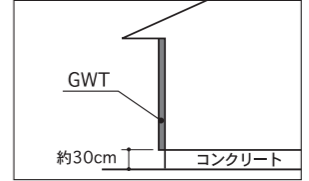
開口部の角は、クラックが入りやすいところです。ラス網を右図のように貼って補強してください。



### 雨水による「白華現象」防止策（一例）



● 「ヒサシ部分」には勾配をつけ、水切りをつけてください。（「笠木部分」も同様）。



● 基礎部分は、地面から水を吸い上げないよう、目地や見切りをつけてください。